令和８年度

全国学力・学習状況調査の結果分析と今後の取組

令和８年１０月

大紀町教育委員会

目　次

令和８年度　全国学力・学習状況調査の
結果分析と今後の取組について・・・・・・・・・・・　１

七保小学校の結果分析と今後の取組について・・・・・・・・　２

大宮小学校の結果分析と今後の取組について・・・・・・・・　３

大紀小学校の結果分析と今後の取組について・・・・・・・・　４

大紀中学校の結果分析と今後の取組について・・・・・・・・　５

令和８年度全国学力・学習状況調査の結果分析と今後の取組について

令和８年１０月
大紀町教育委員会

本年４月２３日に実施された「全国学力・学習状況調査」（対象：小学校第６学年及び中学校第３学年）の結果が、７月に文部科学省から公表されました。

大紀町教育委員会では、各校の代表者等で構成する大紀町学力向上推進委員会を設置し、町内の児童生徒の学力や学習状況を把握・分析するとともに、教育施策の改善を図っています。各学校でも、本調査結果を踏まえた授業改善を進め、児童生徒の実態に応じた実効性の高い教育活動を模索し、取り組んでいるところです。

学力の定着と向上には、ご家庭ならびに地域の皆様の協力が不可欠です。各校の分析結果を「強み」「弱み」として表すとともに、改善に向けた方策や皆様方にお願いしたい事項をまとめましたので、ご協力くださいますようお願いします。

（１）教科に関する調査結果から

①小学校について

国語・算数ともに大紀町の正答率は全国平均を上回りました。学習の基盤となる【知識・技能】や、課題を解決していくために考え、判断し、表現する力【思考・判断・表現】がバランスよく身についています。一方で、国語の「引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」や算数の「混み具合について判断すること」といった、自分の考えを整理し、根拠を示しながら伝える力に課題が見られました。

②中学校について

大紀町では、国語・数学の正答率が全国平均を上回り、英語の平均IRTスコアも全国平均を上回りました。特に【知識・技能】を問う問題の正答率が高く、日々の学習の積み重ねが成果として表れています。一方で、国語の「話し合いを受けて結論を導くために考えをまとめること」や数学の「図形の領域」に課題が見られました。

（２）質問紙調査の結果から

文部科学省の調査では、全国的にSNSや動画視聴等の利用時間が長くなる一方で、学校外での勉強時間が短くなる傾向が指摘されています。大紀町でも同様の傾向が見られました。今後も学校と家庭が連携し、子どもたちが望ましい学習習慣を確立できるよう努めてまいります。

また、三重県がウェルビーイングの重要な要素としている「自分にはよいところがあると思いますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という質問に対し、本町では肯定的な回答が多く見られました。さらに、「人が困っているときは、進んで助けていますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問には、全児童・生徒が肯定的に回答しました。

今後も、子どもたち一人ひとりが自分らしく、安心して、いきいきと学校生活を送れるよう、家庭・地域・学校が一体となって、【褒める・認める・励ます】かかわりを大切にしてまいります。

七保小学校の結果分析と今後の取組について

（１） 教科に関する調査結果から

①国語科について

【強み】・相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること
・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと

【弱み】・引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること

②算数科について

【強み】・小数が十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数を作ること
・立方体の体積の計算による求め方について理解していること

【弱み】・異分母の分数の大小を判断しその理由を数や言葉を用いて記述できること

（２） 質問紙調査の結果から

【強み】・普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがよくある。
・授業で学んだことを次の学習や実生活に結び付けて考えたり、活かしたりすることができる。

【弱み】・学校が休みの日の勉強時間が少ない。

（３） 全体を通して

本校では、「めあて」を子ども中心に立て、終末に「ふりかえり」を行う、主体的に学ぶ授業づくりを進めています。また、「七保っ子補充学習」で本校独自の系統的な算数プリントに繰り返し取り組んだり、自主学習を充実させたりして、基礎的な学力が定着しています。こうした取組の成果もあり、調査結果では、各教科とも全国平均や県平均を大きく上回っています。質問紙調査では、「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる」「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる」等で肯定的な回答の割合が高くなっています。子どもたちは、学ぶ意義を自覚するとともに、学び方を身に付けてきています。

（４） 家庭や地域へのお願い

本校では、学校教育目標「心やさしく　考え、動く　～自立と共生～」を掲げ、主体的に考え、判断し、行動する力（自立する力）、相手の立場に立って協働する力（共生する力）の育成に努めています。質問紙調査では、「いじめは、どんな理由があってもいけない」「人が困っているときは、進んで助けている」「人の役に立つ人間になりたい」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいあるか」等の質問について、全児童が肯定的な回答をしていました。自己肯定感や自立する力、共生する力が育まれているのは、家庭や地域のご理解、ご協力によるところが大きいと考えます。県内でも課題とされるテレビゲーム・スマホ等の家庭ルールの徹底、家庭学習の充実、読書活動の推進に向け、ご家庭や地域でもご協力くださいますようお願いします。

大宮小学校の結果分析と今後の取組について

（１） 教科に関する調査結果から

①国語科について

【強み】・話の中心が明確になるよう、話の構成を考えること
・話や文章の種類とその特徴について理解すること

【弱み】・筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えるとともに、引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること

②算数科について

【強み】・立方体の体積の計算による求め方について理解していること
・表やグラフを読み取り、条件に合った数量を考えること

【弱み】・一辺の長さが分かっている立方体の体積を求める公式を使って考えること
・2 つの分数の大小を比べること
・3 分の 5 から「3 分の 1 がいくつ分か」に着目し、基準 1 を捉えること

（２） 質問紙調査の結果から

【強み】・学習内容について分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる

【弱み】・家庭での学習時間が少ない

（３） 全体を通して

本校では、「主体的に学びを深める子どもの育成」をめざし、授業改善に取り組んでいます。子どもの姿を出発点に、子どもたちが主体的に学習に取り組める手立てを考え、課題解決の見通しがもてる「めあて」の設定や、「分かった」「解決できた」という達成感を大切にした授業に取り組んでいます。

質問紙調査でも、「先生から良いところを認められている」「授業がよくわかる」「話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる」「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と思える子どもが増えてきました。今後も、「書く力を高める」ことや「人と違う意見を言っても互いに認め合える仲間づくり」に全学年で取り組んでいきます。

調査結果を踏まえ、引き続き、大宮小の子どもたちの「強み」を伸ばし、「弱み」を克服するため、授業改善に取り組んでいきます。

（４） 家庭や地域へのお願い

質問紙調査では、「自分には良いところがあると思う」「普段の生活の中で幸せな気持ちになる」「人の役に立つ人間になりたいと思う」「人が困っているときは進んで助ける」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」等の質問に対して全児童が肯定的な回答をしていました。

このことから、地域・保護者の皆さんが学校教育に理解を示し、子どもたちを支えてくださっているおかげで、子どもたちは高い人権意識と幸福感をもち、楽しく学ぶことができていると考えられます。

課題である「家庭学習の充実」「読書活動の推進」「テレビゲーム・スマホ等の家庭ルールの徹底」については、学校より配付された「家庭学習の手引き」を活用していただき、子どもたちへのご支援をよろしくお願いします。

大紀小学校の結果分析と今後の取組について

（１） 教科に関する調査結果から

①国語科について

【強み】・文意に沿った漢字に書き直すなど、漢字の基礎知識があること。
・文章の書き方に特徴があることに気づき文意を捉えること。

【弱み】・提示された文章に文を繋げたり、自分の経験と結び付けたりして考えをまとめること。
・資料から必要な情報を見いだし、それを引用してまとめること。他者の意見を理解し他者の立場に沿った意見をまとめること。

②算数科について

【強み】・辺の長さがわかっている立方体の体積を求める式を考えること。
・時間の加減法の計算や、数の構成を理解して数字に表すこと。

【弱み】・二次元の表の読み取り問題で、問題の意図を掴むこと。
・複数の立方体でできた直方体のように、複雑な立体になった場合の体積を求めること。

（２） 質問紙調査の結果から

【強み】・「学校に行くのが楽しい」「友だち関係に満足している」の割合が９割超であること。

【弱み】・学校外での読書や、家庭学習などの自主的な学びの機会が、県や国と比較して少ない傾向が見受けられること。

（３） 全体を通して

平均正答率は、国語で 56.2%（県平均より▼2.6 ポイント低い)、算数で 58.7%（県平均より△4.9 ポイント高い）という結果でした。各教科で共通していることは、基礎的な知識や技能が着実に定着し、自分の考えをもつことができていることです。一方で、国語では、条件を満たした作文、文章を引用した作文、相手の考えを受け止めて思考を膨らませることに課題が見受けられます。算数では、数学的な概念の理解や、知識・技能を生活の中で活用していくことに課題が見受けられます。相手の立場に立った場合の思考や概念理解に関して弱さが見受けられるのは、自分の考えに根拠を明確に持てていないことが要因の一つであると考えています。引き続き、対話を通した協働的な学びを通して、多様な思考に触れ、根拠を明確にしながら学びを深めていくように、学習の質の向上を図っていきます。

（４） 家庭や地域へのお願い

学校アンケートの結果より、他の項目と比較して、保護者では「(自分の子どもが）家庭学習や宿題に、よく取り組んでいる」、児童では「休み時間や家で、図書館で借りた本などを読んでいる」という項目に課題が見受けられます。学習状況調査の結果からも、家庭学習の習慣の確立が課題の一つになっています。自身で課題を見いだし、粘り強く解決していこうとする力の育成が求められています。ご家庭におきましても、「どうしてそう考えたの？」などと問いかけ、対話を通して子どもたちの興味・関心を高めてください。特に、取組の過程で見られる姿や子どもたちの変容を具体的な言葉で褒めてください。

大紀中学校の結果分析と今後の取組について

（１）教科に関する調査結果から

①国語科について

【強み】・単語の活用について理解していること
・表現の効果を考えて描写すること

【弱み】・文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使うこと
・語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えること

②数学科について

【強み】・同類項の意味を理解していること
・正の数と負の数を用いて変化や状況を表すこと

【弱み】・具体的な事象を基に、証明する事柄の仮定を見いだすこと
・事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること

③英語科について

【強み】・日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を聞き取ること
・自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ること

【弱み】・事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くこと
・短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くこと

（２）質問紙調査の結果から

【強み】・「学校に行くのは楽しい」「自分にはいいところがある」「人の役に立つ人間になりたい」と思う生徒の割合が高い。
・国語、数学、英語の授業は「将来社会に出た時に役に立つ」と回答した生徒の割合が高い。

【弱み】・平日のＳＮＳ利用や動画視聴などが、２時間以上と回答した生徒の割合が高い。
・平日の授業以外の勉強時間が、２時間以下と回答した生徒の割合が高い。

（３）全体を通して

生徒は、学校生活に満足しており、落ち着いた環境の中で授業に参加することができています。多くの時間を過ごす学校を、魅力があり安心して過ごせる場所だと感じている生徒が多いともいえます。これからも、基礎・基本を重視した授業改善や一人ひとりが認められる仲間づくりに取り組み、学力向上に努めます。

（４）家庭や地域へのお願い

学習以外の場面でも、スマートフォンや一人一台端末等を使用する機会が増加しています。正しく安全に利用するための家庭内のルール等を再確認してください。また、家庭学習の習慣を定着させていきたいと考えていますので、見守りをお願いします。大紀中学校は、今年度、町唯一の中学校として再出発いたしました。今後も、地域・社会とのつながりをさらに深めながら、生徒のよさや可能性を引き出し、伸ばしていく取組を継続していきます。引き続き、ご家庭や地域のみなさまにもご理解とご協力をいただければ幸いです。